

カンジダ・アウリスの臨床、行政対応 アウトブレイクへの備え

AMR Online seminar “*Candida auris*”

近年、諸外国において、多剤耐性で重篤な感染症を引き起こす恐れのあるカンジダ・アウリス(*Candida auris*)による、血流感染症等の侵襲性感染症の事例が多数報告され、問題となっています。カンジダ・アウリスは、環境中で長期間生存するため、集中治療室(ICU)などでの医療機器を介したアウトブレイクの事例が、米国等から複数報告されています。院内で環境面への接触を含む接触感染等によりヒトからヒトに容易に伝播し、侵襲性感染症例は高い致命率を示します。抗真菌薬への薬剤耐性率が非常に高く、米国CDCによると、分離株の約1/3が2種類以上の抗真菌薬に耐性であることが報告されています。加えて、現状では臨床現場で使用可能な全ての種類の抗真菌薬に耐性である株の報告もあり、薬剤耐性(AMR)対策の観点からも非常に重要な真菌種です。今般、国内初となる海外株によるカンジダ・アウリス真菌血症による死亡例が報告され、厚生労働省健康局結核感染症課からも注意喚起が発出されています。

日時：2023年11月18日(土) 開会 10:00-12:30 (JST)

参加申し込み：https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_LrwFp5ZySg-9k1tHtDYHjQ



プログラム

司会：石金 正裕

国際感染症センター

- 10:00 開会挨拶：宮崎 義継 国立感染症研究所 真菌部 部長
- 10:05 「日本での臨床経験」
的野 多加志 佐賀大学医学部附属病院 感染制御部 特任准教授
- 10:35 「米国での臨床経験」
兒子 真之 ヒューストン・メソディスト 感染症科 医師
*米国よりオンライン
- 11:05 休憩 (10分)
- 11:15 「環境整備を含めた感染対策とアウトブレイク対策」
山岸 拓也 国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター 第四室 室長
- 11:45 「検査診断および薬剤感受性試験など」
宮崎 義継 国立感染症研究所 真菌部 部長
- 12:15 Q&A
- 12:25 閉会挨拶：大曲 貴夫 国際感染症センター センター長

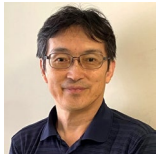
プロフィール



大曲 貴夫 Norio Ohmagari

国立国際医療研究センター 国際感染症センター・センター長
総合感染症科科長(併任)、AMR臨床リファレンスセンター長(併任)

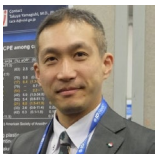
佐賀医科大学卒業 聖路加国際病院内科レジデント
2002年テキサス大学ヒューストン校内科感染症科フェロニカルフェロー 2004年静岡県立静岡がんセンター感染症科医長、2007年同部長、
2011年国立国際医療研究センター 国際疾病センター 副センター長、2012年同院国際感染症センター長、
2017年4月 国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター長(兼任)



宮崎 義継 Yoshitsugu Miyazaki

国立感染症研究所 真菌部 部長 ハンセン病研究センター長(併任)

1988年長崎大学医学部卒業 同年長崎大学医学部附属病院 第二内科 研修医 1989年佐世保市立総合病院 内科研修医
1990年長崎大学大学院医学研究科 1994年伊万里市立市民病院 内科勤務
1995年米NIH (Nat Inst Allergy and Infect Dis) 感染症部門(Dr. John Bennett)フェロー
1998年長崎大学医学部附属病院 検査部講師 2000年長崎大学医学部 第二内科 講師 2007年国立感染症研究所 生物活性物質部 部長
2013年真菌部設置に伴い国立感染症研究所 真菌部 部長 2019年ハンセン病研究センター長(併任)



山岸 拓也 Takuya Yamagishi

国立感染症研究所薬剤耐性研究センター第四室長、併任 同実地疫学研究センター、
実地疫学専門家養成コース (FETP) ファシリテーター

横浜市立大学医学部卒業 1999年から2008年まで東京都済生会中央病院 横浜市立大学附属病院 静岡こども病院、
横浜市立大学附属市民総合医療センター 大和市立病院で勤務
2008年国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース(FETP) 2010年国立感染症研究所細菌第二部(JANIS事務局)
2012年同感染症疫学センター 2015年世界保健機関西太平洋地域事務局(WPRO)健康危機管理部、
2017年国立感染症研究所感染症疫学センター 2020年同薬剤耐性研究センター第四室長



的野多加志 Takashi Matono

佐賀大学医学部附属病院 感染制御部 特任准教授

長崎大学医学部卒業 (東北大学大学院卒業)
2009年亀田総合病院総合診療・感染症科後期臨床研修、2012年同フェロー 2013年国立国際医療研究センター総合感染症コースフェロー
2016年国立感染症研究所細菌第一部研究生、
2017年飯塚病院総合診療科医長 2019年同感染症科部長、2022年同感染管理センター センター長(兼任)
国立病院機構本部DMAT事務局/厚生労働省DMAT事務局新興感染症等対策課 (兼務)
2023年より現職



兒子 真之 Masayuki Nigo

ヒューストン・メソヂェスト病院 感染症科医師
癌・移植感染症フェローシップ 副ディレクター

福井大学医学部2005年卒業 茅ヶ崎徳洲会病院レジデント 2013年ニューヨーク・バス・イスラエル病院内科研修修了
2016年テキサス大学ヒューストン校内科感染症科フェロー修了 2016年同大学感染症科Assistant Professor、
2022年同大学Associate Professor 2023年School Biomedical InformaticsにてMaster取得
2023年より現職 ヒューストン・メソヂェスト感染症科・免疫抑制感染症部門



石金 正裕 Masahiro Ishikane

国立国際医療研究センター 国際感染症センター 医師
AMR臨床リファレンスセンター 新興再興感染症とAMRのWHO協力センター focal point(兼務)

佐賀大学医学部卒業(東北大学大学院卒業)
2007年佐賀大学医学部卒業 沖縄県立北部病院 聖路加国際病院、
国立感染症研究所 実地疫学専門家養成コース(FETP)を経て2016年より現職
WHO協力センターとしてWPRO域内の新興再興感染症の臨床マネージメント・感染対策やAMR対策も実施。